

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 特許出願公開

⑯ 公開特許公報 (A)

昭55—162772

① Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

② 公開 昭和55年(1980)12月18日

C 07 D 213/64

7138—4 C

発明の数 1

213/65

7138—4 C

審査請求 未請求

213/68

7138—4 C

213/70

7138—4 C

213/82

7138—4 C

213/85

7138—4 C

215/22

7306—4 C

217/14

7306—4 C

217/24

7306—4 C

235/26

7306—4 C

239/32

6670—4 C ※

(全 6 頁)

④ 置換酢酸誘導体の製造法

尼崎市武庫豊町 2 の 5 の 53 の 30
3

① 特 願 昭55—69434

① 出 願 人 塩野義製薬株式会社

② 出 願 昭49(1974)5月22日

大阪市東区道修町 3 丁目12番地

③ 特 願 昭49—58244の分割

④ 代 理 人 弁理士 岩崎光隆

⑤ 発 明 者 浜田芳徳

最終頁に続く

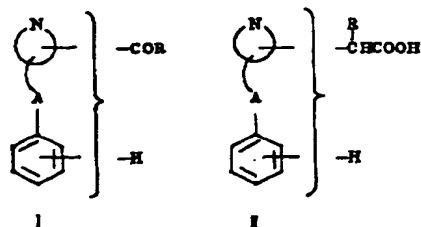
明 細 書

1 発明の名称

置換酢酸誘導体の製造法

2 特許請求の範囲

一般式Ⅰで表わされる化合物にアルコキシメチレン三炭化水素基置換フォスホランを反応させ、得られる化合物を加水分解しついで酸化して一般式Ⅱで表わされる化合物を得ることを特徴とする置換酢酸誘導体の製造法。



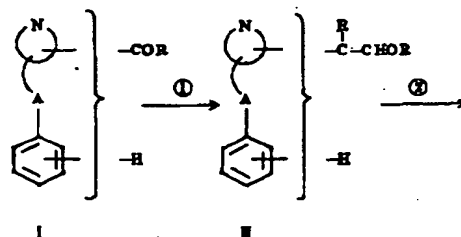
(式中、Nはピリジン、ピリミジン、イミダゾールまたはチトラゾールを表わし、Rは炭化水素基を表わし、Aは酸素または硫黄を表わし、Nおよび上記ベンゼン環上には反応に影響 及ぼさない)

3 個の置換基を有していてもよくあるいは結合ベンゼン環または結合脂環を有していてもよく-COR基はこの結合ベンゼン環上にあつてもよい。

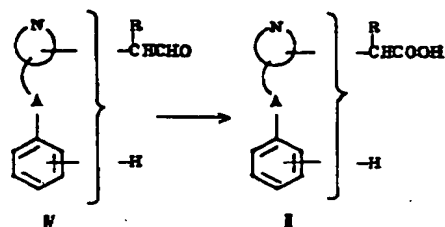
3 発明の詳細な説明

本発明は置換酢酸誘導体の製造法に関し、その目的は優れた抗炎症作用(抗リウマチ作用も含む)および鎮痛作用を示し医薬または動物薬として有用な置換酢酸誘導体を得る点にある。

本発明方法の要旨は次式によって示される。



(以下余白)



(式中、Nはピリジン、ピリミジン、イミダゾールまたはチトラゾールを要わし、Rは炭化水素基を要わし、Aは酸素または硫黄を要わし、Nおよび上記ベンゼン環は反応に影響を及ぼさないノ〜3個の置換基を有していてもよくあるいは結合ベンゼン環または結合脂環を有していてもよく、-COB基はこの結合ベンゼン環上にあつてもよい、Rはアルキル基を要わす。)

本発明方法は一般式Iで表わされる化合物をアルコキシメチレン三炭化水素置換フォスホランと反応させるいわゆるウィティフヒ(Wittig)反応に付し(反応①)、得られる化合物IIを加水分解に付し化合物IIIとした(反応②)後酸化反応に

- 3 -

常不活性気流中で行われる。得られる化合物IIIはついで反応③すなわち加水分解反応に付し、アルコキシメチレン基をアルデヒド基にする。この加水分解は通常エノールエーテルを加水分解する際に用いられる手段を用いることができる。例えば、酸として硫酸、硝酸、硝酸またはこれらと有機酸(例えば、酢酸)などの混合物を用いることができ、塩基として水酸化アルカリ、炭酸アルカリなどが用いられ水あるいは含水溶液の存在下で加熱することにより実施される。生成する化合物IVは単離することなく次工程④に付すことができる。

反応④は化合物IVのアルデヒド基をカルボキシル基に変えるもので一般のアルデヒド基をカルボキシル基に変換する酸化反応に準じて行えばよい。例えば過マンガン酸カリウム、過酸化水素、酸化銀などにより水中または有機溶液中で酸化してもよいし、硝酸、クロム酸、希硫酸と過酸化水素、または過酸化酢酸などにより酸化してもよい。なお上記反応①、②および③の工程において反応を受ける環上の置換基は各反応の前後に置換基を修飾

- 5 -



特開昭55-192772(2)

付して目的とする置換酢酸誘導体IIを得る(反応①)ものである。

次に本発明方法の実施について詳細に記する。反応①は通常のウィティフヒ反応に従って行えばよく、種々のアルコキシメチレン三炭化水素置換フォスホラン(例えば、メトキシメチレントリフェニルフォスホラン、メトキシメチレントリ(メトキシメチル)フォスホラン、エトキシメチレントリブチルフォスホランなど)が原料化合物と反応条件に応じて適宜選択し使用される。例えば、上記フォスホランにハロゲン化水素が付加したフォスホニウム塩を使用し、有機金属(例えば、フェニルリチウム、ブチルリチウムなど)を用いてエーテル類(例えば、エーテル、ジビニルエーテル、テトラヒドロフランなど)中で必要に応じて加温下で化合物Iと反応させるか、あるいはアルカリ金属アルコキサイド(例えば、ナトリウムメチレート、ナトリウムエチレートなど)を用いアルコキサイドと対応するアルコール中で反応させるのが通常実用的である。反応は通

- 4 -

ることにより、最終において目的化合物を得るようにすることができる。

なお、原料化合物Iはハロゲノピリジン類にフェノール類またはチオフェノール類を必要に応じて塩基性物質の存在下に反応させることにより、製造される。

かくして得られた化合物IIはさらに分離、精製あるいは製剤化、その他の必要に応じて、適当なアルカリ金属塩(例えば、ナトリウム、カリウムなど)、アルカリ土類金属塩(例えば、カルシウム、マグネシウム、バリウムなど)、その他アルミニウム塩などに常法に従って変換することができる。

本発明方法の目的化合物である置換酢酸誘導体及びその塩類は優れた抗炎症作用(抗リウマチ作用も含む)または鎮痛作用を示し、医薬または動物薬として有用な化合物である。

以下実施例において本発明方法の実施態様を示す。

実施例1

- 6 -



粉末にしたメトキシメタレントリフェニルフォ
スフオリウムクロライド 2.3249 をエーテル
 20 mlに懸濁し、内温 $15\sim 20^{\circ}\text{C}$ で $1/25$
モルフェニルリチウムエーテル溶液 60 mlを滴下
後 15°C で 15 分間かきまぜる。ユーフェノキシ
ーアセチルピリジン $2/49$ のエーテル溶液
 140 mlを 30 分で滴下後室温で 14 時間かきま
ぜる。不溶物を除去し母液に氷水を注ぎエーテル
で抽出する。抽出液を水洗、乾燥後溶媒を留去し
残渣 17629 をシリカゲルカラムクロマトに付
す。ベンゼン/酢酸エチル $(50:1)$ 溶出部を
減圧蒸留すると $b_{\text{red}}^{\text{lit}}$ $147\sim 149^{\circ}\text{C}$ のユーフェ
ノキシー $5-(1\text{-メチル}-2\text{-メトキシビニル})$
ピリジン 5429 を得る。

元素分析 $\text{C}_{17}\text{H}_{19}\text{O}_2\text{N}$ として

計算値: $\text{C}, 74.66; \text{H}, 6.27; \text{N}, 5.89$

実験値: $\text{C}, 74.94; \text{H}, 6.37; \text{N}, 5.79$

IR $\nu_{\text{max}}^{\text{CHCl}_3}$ cm^{-1} $1658, 1590$

NMR $\delta(\text{CDCl}_3)$ $1.88, 1.95(3\text{H}, \text{d}), 1.267,$
 $3.70(3\text{H}, \text{s}), 6.12, 6.33(3\text{H}, \text{q})$

- 7 -



特開55-162772(3)

本品 1469 を 2N 濃度 50 mlに加え、窒素気
流中一夜かきまぜた後反応液にベンゼン 10 mlを
入れ窒素気流中通マンガン酸カリウム 139 の水
溶液 30 mlを 20 分で滴下さらに室温で 10 分間
かきまぜた後不溶物を除去し母液を炭酸水素ナ
トリウムで $\text{pH}3\sim 4$ としてエーテルで抽出する。抽
出液を 5% 炭酸水素ナトリウム水溶液で抽出し、
 10% 塩酸で $\text{pH}4$ とした後エーテルで再び抽出す
る。抽出液を水洗、乾燥し溶媒を留去する。残渣
 610 mgをベンゼン/石油エーテルで再結晶する
と $88\sim 90^{\circ}\text{C}$ のユー(ユーフェノキシー 5 -
ピリジル)プロピオン酸 210 mgを得る。本品は
他の方法により調製された製品と同一とされた。

実施例 $2-103$

以下実施例 1 と同様にして下記の化合物を得る。
なお、下記表中で用いられる略号は下記の意味を
表わし、A欄において例えば $2-0$ はピリジン環
の 2 位がエーテル結合していることを表わし、 $X_1,$
 X_2, Y_1, Y_2 および Y_3 欄において例えば 4-Cl はク
ロルが母核の 4 位を置換していることを表わす。

- 8 -

Me = メチル基, Me = メトキシ基, Et = エチル基,
Pr = プロピル基, i-Pr = イソプロピル基,
Bu = ブチル基, i-Bu = イソブチル基,
s-Bu = s-ブチル基, t-Bu = t-ブチル基,
Ac = アセチル基, An = アニリノ基,
 $\text{Ca}(\text{H}_2\text{O})$ = カルシウム塩(水和物),
Al = アルミニウム塩, d = 分解点。

(以下空白)

- 9 -



実験例 No.	位置	R	-A-	X ₁	X ₂	Y ₁	Y ₂	Y ₃	φ (°C)
3	3	M ₀	3-O	H	H	H	H	H	135~135
3	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	119~120
4	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	98~99
5	4	M ₀	2-O	H	H	2-CF ₃	H	H	107.5~108.5
6	4	M ₀	2-O	H	H	3-CF ₃	H	H	84~85
7	3	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	110~111
8	3	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	94~95
9	3	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	114~115
10	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/135~136
11	2	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/10~11
12	4	M ₀	2-8	H	H	H	H	H	166~65
13	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	129~130
14	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	101~103
15	3	M ₀	6-8	H	H	H	H	H	114.5~115
16	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	98~99
17	4	M ₀	2-8	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/140~141
18	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/55
19	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	92~93
20	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	106~107
21	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	105~106
22	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	113.6
23	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	154~156
24	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/135~137
25	3	M ₀	6-8	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/50
26	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	160~162 (別掲)
27	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/107~109
28	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/135~137
29	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/45
30	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/120.5

- 10 -

実験例 No.	位置	R	-A-	X ₁	X ₂	Y ₁	Y ₂	Y ₃	φ (°C)
31	3	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	115~116
32	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	132~133
33	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	142~143
34	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	136~137
35	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	206~208
36	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	119~120
37	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	138~139
38	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	120~121
39	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	135~136
40	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	72~93
41	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	115~116
42	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	96~97
43	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	65~67
44	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	81~82
45	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	120~121
46	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	90~91
47	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	145~146
48	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	77~78
49	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	86~87
50	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	107~108
51	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/134
52	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/134
53	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/134
54	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	123~124
55	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	103~104
56	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	128~129
57	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	113~114
58	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	155~156
59	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	135~136
60	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/134
61	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	123~124
62	4	M ₀	2-O	H	H	H	H	H	126~127
63	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	C ₆ (H ₅ O)/134
64	3	M ₀	6-O	H	H	H	H	H	120.5~121.5

実施例104-107

実施例1と同様にして下記の化合物を得る。

2-(4-(3-ピリジルオキシ)-2-ナフチル)プロピオン酸、mp 197~198℃。

2-(4-(1-フェニル-1,2,4-テトラゾリルオキシ)フェニル)プロピオン酸、mp 165~166℃。

2-(4-(3-ピリミジルオキシ)フェニル)プロピオン酸、mp 174~175℃。

2-(4-(1-ナチル-2-ベンズイミダゾイルオキシ)フェニル)プロピオン酸、mp 184~185℃。

特許出願人 塩野義製薬株式会社

代理人 弁理士 岩崎 光

第1頁の続き

⑤Int. Cl.³

// A 61 K	31/415
	31/44
	31/455
	31/47

識別記号

ABG
ABE
AAH
ABG

庁内整理番号

⑥発明者 岡田哲夫

堺市三条通2の5